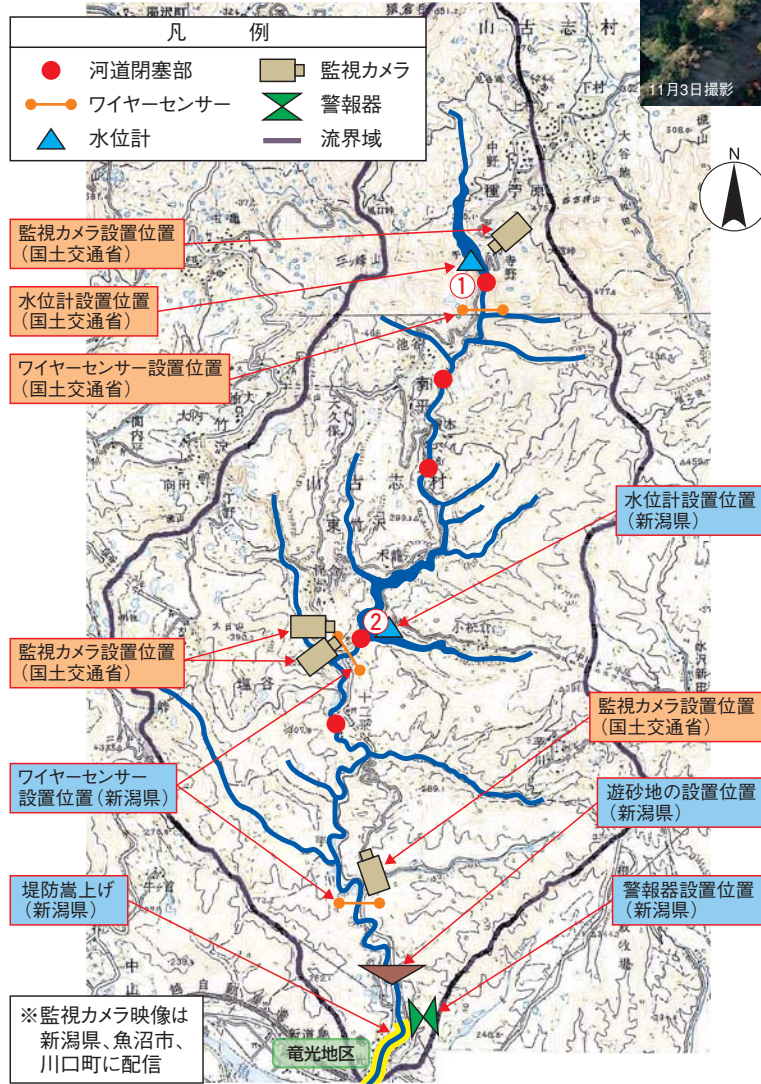


地域の復興に欠かせない芋川河道閉塞対策

山古志村を中心とした地域では、地震による多数の土砂崩れや地すべりによって大量の土砂が河川を埋塞させ、道路を寸断させるなど甚大な被害が発生している。

山古志村の芋川流域では5箇所の河道閉塞が発生し、なかでも寺野地区、東竹沢地区における河道閉塞は規模が大きく人家が水没するなどの被害が発生した。

■芋川流域における河道閉塞状況と対応



■土砂災害の発生状況

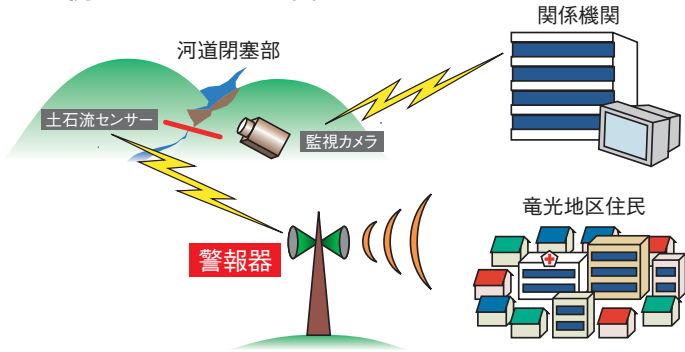
発生災害 (12/28 9:00現在)	発生件数	人的被害			家屋損壊数		
		死者	行方不明	負傷者	全壊	半壊	一部損壊
地すべり	131	2			18	23	31
がけ崩れ	115	2		1		4	16
土石流等	21						1
計	267	4		1	18	27	48

新潟県資料

■監視カメラ設置状況



■監視システムイメージ図



芋川の下流部にある竜光地区では、土石流発生時に速やかな避難を可能とするため土石流センサーを取付け、土石流が発生した場合は関係機関や地区の住民に情報を伝達する仕組みが整えられている。

●芋川流域における河道閉塞への対応

11月2日、新潟県知事からの要請を受け、5日に寺野地区・東竹沢地区の2箇所の河道閉塞対策について直轄砂防事業として実施することを決定した。6日より、芋川流域の河道閉塞対策として、越流を防ぐために緊急排水路でポンプを用いた排水を24時間体制で行ってきたことから河道閉塞上流の水位は大幅に低下している。また、寺野地区においては12月19日に、東竹沢地区においては12月28日に、春先の融雪出水時の越流による決壊を防止するための仮排水路整備が完了した。

対策にあたり、国土技術政策総合研究所、独立行政法人土木研究所及び同新潟試験所の専門家による、芋川河道閉塞箇所の現地調査を10月24～25日に行い、応急復旧対策工等について助言を頂いた。さらに11月12日には、独立行政法人土木研究所の専門家により芋川河道閉塞箇所の湧水対策について助言を頂いた。

①寺野地区の対応状況 (平成16年11月18日撮影)



■寺野地区



②東竹沢地区の対応状況 (平成16年11月28日撮影)



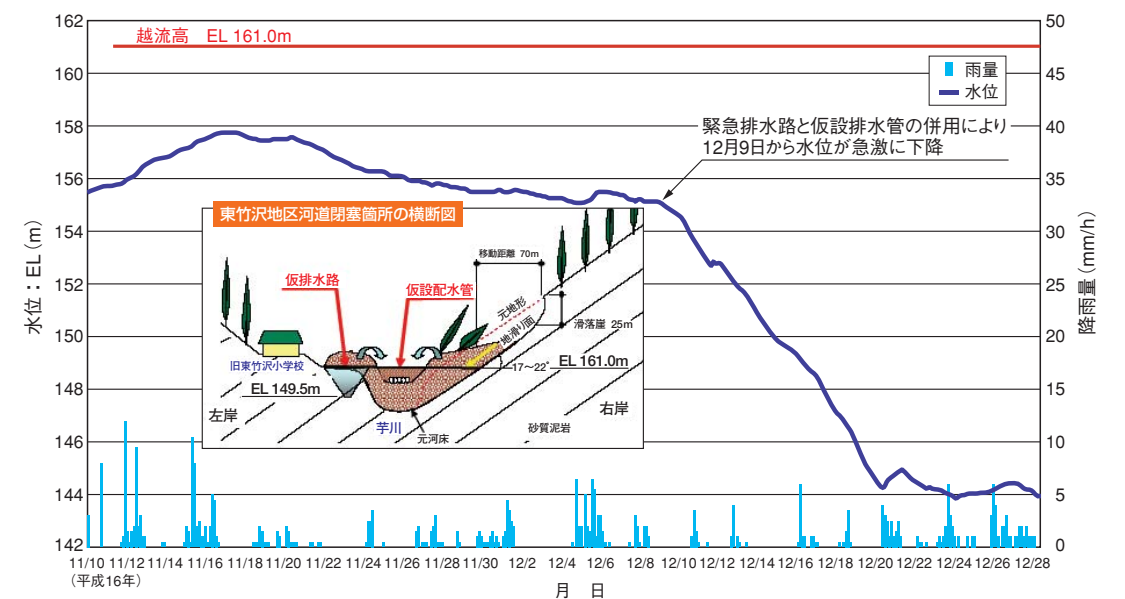
■東竹沢地区



●自衛隊ヘリによる資材運搬



■東竹沢河道閉塞水位経時変動図



「芋川河道閉塞対策検討委員会」の設置

河道閉塞をはじめとする芋川流域で発生した甚大な土砂災害に対する、恒久対策と芋川の砂防計画を検討するために、学識経験者、専門家からなる芋川河道閉塞対策検討委員会を設置し、検討を進めている。